



かがやき



今も昔も変わらぬ大東西小学校のよさ

校長 堀口 雪子

1年生のあさがおや2年生のミニトマトの苗がぐんぐん大きくなっています。毎日「大きくなあれ」と声をかけながら水やりをしている姿がとてもほほえましいです。

さて、今年は開校150周年を迎える記念すべき年です。校門近くのフェンスには、「祝開校150周年」の横断幕が張られています。先日は記念の航空写真撮影が行われました。本校は、保護者の方が卒業生の方も多く、地域の方々から大切にされてきたことを実感します。

そこで、「今も昔も変わらぬ大東西小学校のよさ」を探してみました。タイムカプセル掘り起こしにご来校された卒業生や本校を卒業された保護者の方、本校に勤めていた教員にインタビューしました。また、昨年度全校児童で見つけた4つの自慢を合わせると、次のようなよさがわかりました。

【そうじをもくもくといねいにするここと】

掃除の時間は校内がしんとします。誰もがもくもくと自分の分担場所で掃除をします。廊下も水道の流しもトイレも階段も、どんなところもすみずみまでできることは、大変素晴らしいです。学級の友達や異年齢と一緒に掃除をしながら、自分の心も磨かれていきます。

【明るいあいさつをする子供がたくさんいること】

朝の登校時、明るくはつらつとした「おはようございます」があふれています。授業の始めや終わりのあいさつもはきはきとした声が聞かれます。廊下ですれ違うとき、お客様がいらっしゃった時も自分からあいさつのできる子が多いです。

【仲良く助け合うことができること】

異年齢集団の活動である「ふれあい活動」が以前からあり、学校では他の学年の子供たちと一緒に遊ぶなどしてふれあう場があります。上級生へのあこがれや下級生への思いやりの心が育まれています。

また、同じ学級や学年の仲間には「みんなちがってみんないい」の思いを持って、認め合い、目標に向かって高め合う姿が見られます。

【元気に過ごすことができること】

天気のよい日には校庭に子供たちの元気な声があふれています。外で元気にボール遊びや鬼ごっこ、遊具で遊ぶ子がたくさんいます。体育の授業もかけ声や応援の声などとても元気です。

上に挙げたよさの他にも、「気づき 考え 行動する」姿が見られます。先日も下校帰りの子供たちが体調を崩された方がうずくまっているのを見かけ、「大丈夫ですか」と声をかけたそうです。とても嬉しかったと学校にお話がありました。地域でも自分達で考えて行動できる判断力と勇気が、とても嬉しいです。150周年を迎え、様々な活動を通して、改めて開校に込められた思いを知ることや今後もよき伝統を受け継いでいくこと、さらによりよい学校を創っていくことなどを子供たちと教職員で取り組んでいきたいと思っています。